

## プロフィール



|            |             |
|------------|-------------|
| 名前         | 嶋 雄一        |
| 所属部署       | 川崎医科大学      |
| 職種         | 准教授（解剖学）    |
| この研究室に入った日 | 2016. 4. 1. |
| 出身地        | 福岡          |
| 趣味         | 旅行・ドライブ     |

## インタビュー

### Q1 研究者になるまでの経歴を教えてください。

福岡県福岡市出身です。こどもの頃、親戚の家に「ブラックジャック」の漫画が全巻そろっていて、夢中になって読んだ記憶があります。今思えば、あの頃から発生的なものに興味があったんだと思います。県立筑紫丘高校から、九州大学医学部に進みました。学生時代はバドミントン部の活動に熱中していたのですが、なんとか卒業できる程度には、勉強もしていたんだと思います。卒業後に3年間臨床研修（小児外科）を経験した後、大学院への進学をきっかけに基礎研究の世界に魅力を感じるようになり、結局、臨床を離れて基礎研究者として生きていくことを決断しました。

## Q2 どうして医師ではなく基礎研究者になろうと思ったのですか？

う〜ん、当時はいろいろと難しい事情がありました（苦笑）。今でも、医師という職業はやりがいがあると思っていますが、私自身が、医局という医師特有の組織に馴染めなかったんだと思います。もちろん一方では研究がすごく面白くて、このまま研究を続けたい、という強い思いが最大の動機になりました。研究者に転身するにあたっては、いろいろな方に相談したり、議論したりしました。もう10年以上も前の話ですが、今でも、研究者になって本当によかったと思っています。

## Q3 研究者に転身後はどのような経歴ですか？

当時、基礎生物学研究所（愛知県岡崎市）におられた、諸橋憲一郎教授の研究室に大学院生として加えてもらい、学位（理学博士）を取得しました。医師免許と理学博士をってる人はそんなにいないんじゃないかな（笑）。その後、研究室の移動に伴って2008年に九州大学大学院医学研究院に助教として赴任し、昨年4月に現職（川崎医科大学・解剖学教室・准教授）に異動しました。諸橋研究室には、足掛け15年以上在籍したことになります。諸橋教授は、研究者としての自分を育ててくれた親のような存在だと思っています。そして、現在の上司の樋田一徳教授には、教育経験が少ない自分を採用してもらい、また自由に研究をさせてもらっているので、とても感謝しています。

#### Q4 現在の研究テーマはなんですか？

男性ホルモンを産生する精巣ライディッヒ細胞の分化プロセスに興味を持って研究しています。哺乳類では、胎仔期と思春期以降に男性ホルモン産生のピークがあり、ライディッヒ細胞も胎仔期と思春期以降にそれぞれ出現します。最近の研究から、胎仔期と成獣期のライディッヒ細胞は機能が大きく異なることが分かってきましたが、2種類のライディッヒ細胞が、なぜ、どのようにしてそれぞれの時期に出現するのかは分かっていません。おそらく、2種類のライディッヒ細胞が必要な時期に必要な機能を発揮することで、オスの性分化が段階的に進み、生殖能力を獲得できるのだと考えています。今後は、遺伝子発現制御という切り口から、2種類のライディッヒ細胞の出現時期や機能の違いがどうやって制御されているのかを明らかにしたいと考えています。

#### Q5 現在の研究環境はいかがですか？

大学の研究センターの機器が充実しているので、研究をする上では申し分ない環境です。ただ、これまであまり経験のなかった学部教育を担当することになったので、特に最初の1年間は忙しくて、なかなか研究の時間が取れませんでした。現在の希望としては、若い大学院生や研究員に、ぜひ研究室に加わってほしい、と思っています。ちなみに、川崎医科大学は神奈川県川崎市ではなく、岡山県倉敷市にあります（笑）。倉敷はお世辞にも都会ではありませんが、美観地区をはじめ、文化的に豊かな土地だな、と感じています。また、瀬戸内海から県北の山岳地帯まで車で行けますし、食べ物も美味しく、自然豊かでとても気に入っています。

## Q6 研究に興味がある若い人にメッセージはありますか？

面白いことに、研究って研究者の性格がすごく反映されるんですね。学会発表で話を聞いたり議論したりすると、その人の性格とか、研究に対する考え方がすぐにわかります。考え方が人それぞれであるように、研究も千差万別でいいと思いますが、研究の進め方、データの解釈など、自分が行う研究や自分が発信する研究成果に関しては、納得いくまで考え抜いてほしいと思います。あとは、謙虚になることでしょうか。多くの先人たちの努力の蓄積の上に自分が立っていて、自分は研究者としてそれを少しでも前に進める機会が与えられている、と私自身は認識しています。

最後に、もし私の行っている研究内容に興味があれば、遠慮なく下記に連絡ください。よろしくお願いします。

yshima@med.kawasaki-m.ac.jp